



なぞって練習

己が無智をもつて貧窮
に陥り飢寒に迫るとき
は、己が身を罪せずし
てみだりに傍の富める
人を怨み、はなはだし
きは徒党を結び強訴
・一揆などとして乱暴に
及ぶことあり。恥を
知らざるとや言わん、
法を恐れずとや言わん。
天下の法度を頼みてそ
の身の安全を保ち、そ
の家の渡世をいたしな
がら、その頼むところ
のみを頼みて、己が私
欲のためにはまたこれ
を破る、前後不都合
の次第ならずや。

■ふりがな（青空文庫のふりがなより）

- ・己【おの】
- ・傍【かたわら】
- ・強訴【ごうそ】
- ・法度【ほうど】